

令和7年度の方向性

●東大和市立第五中学校 教育目標  
東大和市の教育に関する大綱、東大和市教育委員会の教育目標、第二次東大和市学校教育振興基本計画に基づき、将来をたくましく生き抜く生徒の育成を図る。  
一、正しい判断ができる（判断力）  
一、協力し、実践ができる（協力・実践）  
一、自他を尊重する（敬愛心）

●目指す学校像

- 1 楽しいと感じる授業の創造と、学力をきちんと身に付けさせる学校
- 2 人と人とのかかわりあいを大切にする学校
- 3 喜びを実感し、充実感を味わえる学校
- 4 学びのキャンパスとして、地域と連携・協力を深め信頼される学校

●学力向上を図るための方策

- 1 ICT機器、並びに「1人1台端末」を活用し、生徒の興味関心を高め、理解が深まる授業の実現を目指して改善に努める。
- 2 個々の生徒への声かけや机間指導を行う中で、学習に課題のある生徒の発見と解決の手伝いを丁寧におこなう。
- 3 基礎学力を身に付けさせる。
- 4 新学習指導要領の実施に際して、言語活動の充実を図り、生徒の思考力、判断力、表現力の伸長を目指す。また、観点の評価について研修を深める。
- 5 特別の教科「道徳」の授業は、互いの意見を理解することを通して各自の考えを深めさせるような指導方法の工夫を図る。
- 6 総合的な学習の授業では、「探求的な学び」を学習テーマの柱として、生徒が自ら興味や関心を持ったことについて課題を設定し、主体的に取り組むことを通して、時間の充実を図る。
- 7 SDGsの「17の目標」について各教科等の学習を通して、持続可能な社会の実現に向けて理解を深めさせ、身近な生活の振り返りを通して主体として何ができるかを考えさせる。
- 8 朝のモジュール学習を通して、落ち着いて短時間で集中するリズムづくりを行う。
- 9 読書活動の充実を図る。
- 10 各教科において必要に応じて課題を設け、家庭学習の充実を図る。
- 11 地域と連携した放課後学習の実施、長期休業中の補習学習を実施する。
- 12 体力の向上に努める。

本校の授業改善に向けた視点

	1年	2年	3年
学習指導の工夫	【学習意欲の喚起】 ○発問の工夫、思考時間の確保 【基礎・基本の定着】 ○反復学習の設定 【思考、判断、表現力等の育成】 ○考えたことや思ったことを伝え合う場面の設定	【学習意欲の定着】 ○発問の工夫、思考時間の確保 【基礎・基本の定着】 ○反復学習の設定 【思考、判断、表現力等の育成】 ○考えたことや思ったことを伝え合い、再考する場面の設定	【学習意欲の継続】 ○発問の工夫、思考時間の確保 【基礎・基本の定着】 ○反復学習の設定 【思考、判断、表現力等の育成】 ○考えたことや思ったことを伝え合い、再考・評価し合う場面の設定
授業等における評価の工夫	○授業のめあてに基づく評価規準の設定 ○指導計画・評価計画の改善 ○観点別学習状況評価・評定の確認 ○テストにおける評価の妥当性の確認	○授業のめあてに基づく評価規準の設定 ○指導計画・評価計画の改善 ○観点別学習状況評価・評定の確認 ○テストにおける評価の妥当性の確認	○授業のめあてに基づく評価規準の設定 ○指導計画・評価計画の改善 ○観点別学習状況評価・評定の確認 ○テストにおける評価の妥当性の確認
教師の授業力向上のための工夫	○「生徒が主体となる授業」をテーマに掲げ、PCを活用し、思考力・表現力を高める研究授業・協議会を実施し、指導技術の向上を図る。 ○管理職による授業観察を通し生徒の思考を引き出す発問の工夫 ○学び合いの実践 ○授業規律の徹底 ○校内研究授業	○「生徒が主体となる授業」をテーマに掲げ、PCを活用し、思考力・表現力を高める研究授業・協議会を実施し、指導技術の向上を図る。 ○管理職による授業観察を通し生徒の思考を引き出す発問の工夫 ○学び合いの実践と再考する場面の設定 ○授業規律の徹底 ○校内研究授業	○「生徒が主体となる授業」をテーマに掲げ、PCを活用し、思考力・表現力を高める研究授業・協議会を実施し、指導技術の向上を図る。 ○管理職による授業観察を通し生徒の思考を引き出す発問の工夫 ○学び合いの実践と再考する場面の設定 ○自己評価及び、今後の自己の取り組みを考える時間の設定 ○授業規律の徹底 ○校内研究授業
授業外における指導の工夫	○家庭学習の啓発 ○モジュール学習による基礎の確認と定着 ○表現・話し合い活動の充実 ○放課後補習の実施 ○各種検定の奨励	○家庭学習の啓発 ○モジュール学習による基礎の確認と定着 ○表現・話し合い活動の充実 ○放課後補習の実施 ○各種検定の奨励	○家庭学習の啓発 ○モジュール学習による基礎の確認と定着 ○表現・話し合い活動の充実 ○放課後補習の実施 ○各種検定の奨励

学力向上・授業改善のための年間計画

4月	●年間指導計画・評価計画の確認 ●全国学力・学習状況調査 ●家庭学習記録シート ●土曜公開授業 ●学習指導員を活用した数学指導 ●少人数・習熟度別授業（数学・英語） ●教育課程説明会※	6月	●オンライン英会話での英会話レッスン開始（年間：授業5回スピーキングテスト3回自宅レッスン10回） ●三者面談（全学年） ●オンライン英会話での英会話レッスン ●授業改善推進プランの策定 ●「全国学力・学習状況調査」「学力向上を図るための調査」の返却と結果の分析 ●「全国学力・学習状況調査」結果の公表 ●進路面談（3年） ●道徳授業地区公開講座 ●授業改善推進プランの公表・実施  ●管理職による授業観察	12月	●学校関係者アンケートの実施 ●後期 IMO-ZO 数学教室の実施（1年・2年） ●進路面談（3年）
5月	●放課後の補充的な学習（通年） ●前期 IMO-ZO 数学教室の実施（2年・3年） ●土曜公開授業 ●管理職による授業観察	7月		1月	●令和6年度教育課程の編成 ●学校関係者アンケートの公表 ●都立高等学校推薦に基づく選抜 ●新入生体験授業 ●都立高等学校学力検査に基づく選抜 ●授業改善推進プランの効果検証 ●保護者会での啓発（1・2年）
6月	●期末考査 （1週間前部活動中止による学習時間確保） ●領域別診断テストによる自己分析	9月		2月	●管理職による授業観察
		10月		3月	●FIRST STEP SCHOOL の実施
		11月			